



おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる心理学・新潟学等講師、経営学修士(MBA)、新潟郷土史研究会会員
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）
「郷土とことわざ」「ことわざを楽しく学ぼう、社会・文化・人生」（人間の科学新社・共著）
「明治大学政経論叢 2016年度（新潟美人）」
（明治大学政治経済研究所）等

「まんぱち」

方言の宝庫新潟県では、共通語の「嘘」は、「てんぼ」、「まんぱち」、嘘つきは「てんぼこき」「うそこき」と称されています。

ということ、ほとんどの県民が信じて疑わないようですが、「まんぱち」は、山梨、長野、山形の地域でもみられることばです。それどころか、古くは江戸時代に使われていたというから驚きです。

さて、江戸ことばを調べてみると、その由来は「万屋八郎兵衛（よろずや はちろべい）」なる人物がいて、大法螺吹きだったとも、大酒飲みだったともいわれ、その名前を略して嘘つきや大酒飲みを「まんぱち」というようになったというのです。これも、まんぱちみたいだね？という声はこの際無視いたしまして話を続けます。

酒席となれば、気も大きくなって風呂敷広げたり、法螺を吹いたりというのはよくある話です。推測ですが、普段大人しい八郎兵衛サン、般若湯の勢いを借りてあること無いこと、ぺらぺらしゃべれば、周りの人も「また、始まった」と呆れ顔。酒飲み八つつあん、今日も酔いにまかせて大風呂敷…、これがいつしか、酔って御託を並べたり、大法螺吹いたりすることが「まんぱち」になったと思われま

す。
嘘つきを表すことばには、千に三つしか本当のことを言わないということで「せんみつ」もありますが、「せんみつ」は1,000分の3の確率で真実を述べています。一方、「まんぱち」の真実の確率は10,000分の8。確率から言えば「まんぱち」のほう

が、より嘘つきということになります。数字を使った言い方では、「嘘八百」というものもありました。どれもこれも、数字を使ったりリズムカルな語感と言ひ回しは、口にしやすい人の記憶に残りやすいため、俗語としても根付きやすいようです。

「まんぱち」は、新潟を中心に北は山形（しかもおおむね日本海側）、南下して長野、そのお隣山梨の各県で今もなお使用され、各県では地域の方言集にも掲載されて郷土のことばとして認識されていますが、このように地域の方言を探ってみると古語や江戸ことばであったということがあ

るようです。
ではまた、なぜ、新潟を軸にしたように日本列島のほぼ中心地域と北の海岸部で江戸ことば「まんぱち」が入ってきて根づいたのか？当時の人々の交流が、モノ、コト、コトバをも運んだのかも知れません。

そうそう、行動や言動が一見ていねいで礼儀正しいにもかかわらず実は中身がない、大嘘つき、ということ「ていねいまんぱち」と称しますが、当時の人々の豊かな語彙力と人間観察力に気づかされます。なお、筆者の調査では新潟のみに見られることばです。もちろん、まんぱちではありませんよ。

※なお、「まんぱち」の説や方言としての使用地域には諸説あります。「ていねいまんぱち」はあくまでも筆者の調査です。

